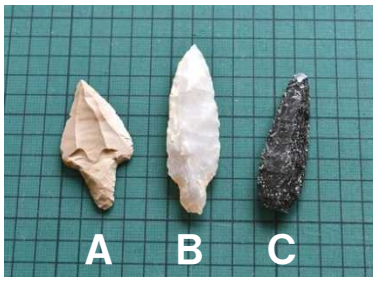
「石器レプリカ」の作り方



1．石器をえらぼう ～ぜんぶピリカ遺跡出土品！

A. 頁岩製 有舌尖頭器 **8.5g**

槍先として使われた狩猟具と考えられています。舌のような突起があることからこのように呼ばれています。ピリカ遺跡の近くでとれる頁岩が使われています。幅の広い形は「ピリカ型」とも呼ばれ、他の２つに比べると古い時代の石器です。

B. メノウ製 有舌尖頭器 **12.0g**

旧石器時代と縄文時代の移り変わりの時期にだけ現れるタイプの有舌尖頭器。メノウは美利河や花石地区でとれるため、地元の石で作られた石器と言えます。頁岩より硬く、作りづらい石ですが、きれいに加工されています。【国指定重要文化財】

C. 黒曜石製 有舌尖頭器 **9.7g**

この黒曜石は後志管内赤井川産で、およそ 80km も離れたところから運ばれてきた石器です。こわれた状態で出土し、上端と下端はなく、中央部も折れていました。

2．粘土をこね、やわらかくしよう

①好きな色の粘土をえらぶ　←白・赤・青・黄・緑の５種類あるよ

②粘土の量を石器と同じ重さにする　←電子ハカリではかろう

③細かくちぎってこねる　←まぜ方によっていろんな色やもようができる!

※最初からまぜたり途中でまぜたり、工夫すると面白いよ



3．型にはめる

①石器の型に「石けん水」を筆でぬる（上下とも）

②石器の型（下）に粘土を押し込む

※シワをつけず、真ん中が高くなるようにするのがコツ

③下の型と上の型とをビー玉を目安に合体させ、上からしっかり押す

4．お湯でゆでる（約１０分）

①ゆっくり型を外し、表面をさわらないように粘土を取り出す

※型の両側をもってねじると取り出しやすい

②お湯でゆで、10 分後に取り出す



5．はみ出た部分を切って完成！

これらの石器がどこに展示されているか、探してみよう！

©ピリカ旧石器文化館